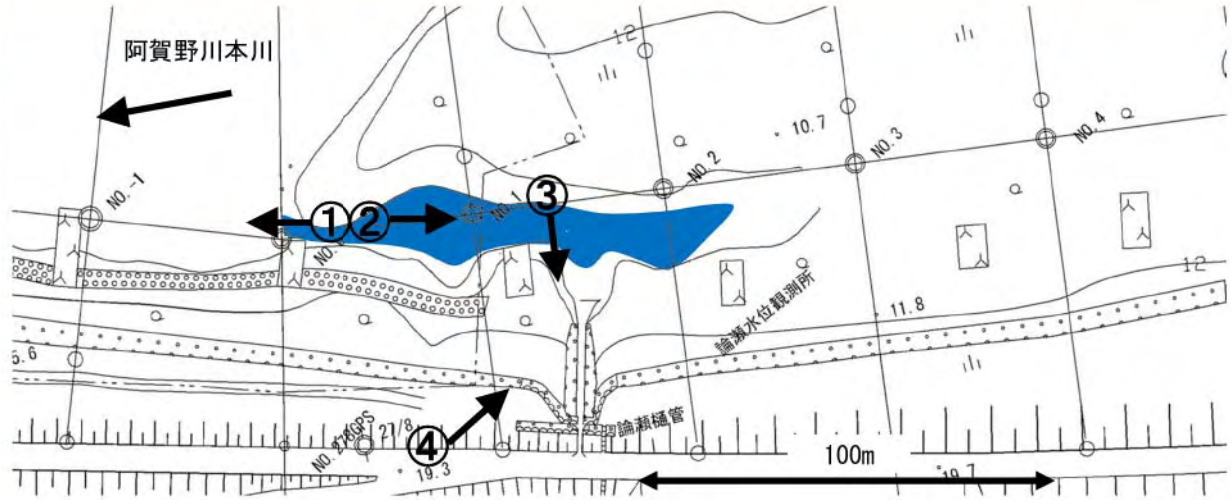


論瀨ワンド整備方針(案)

平成27年3月

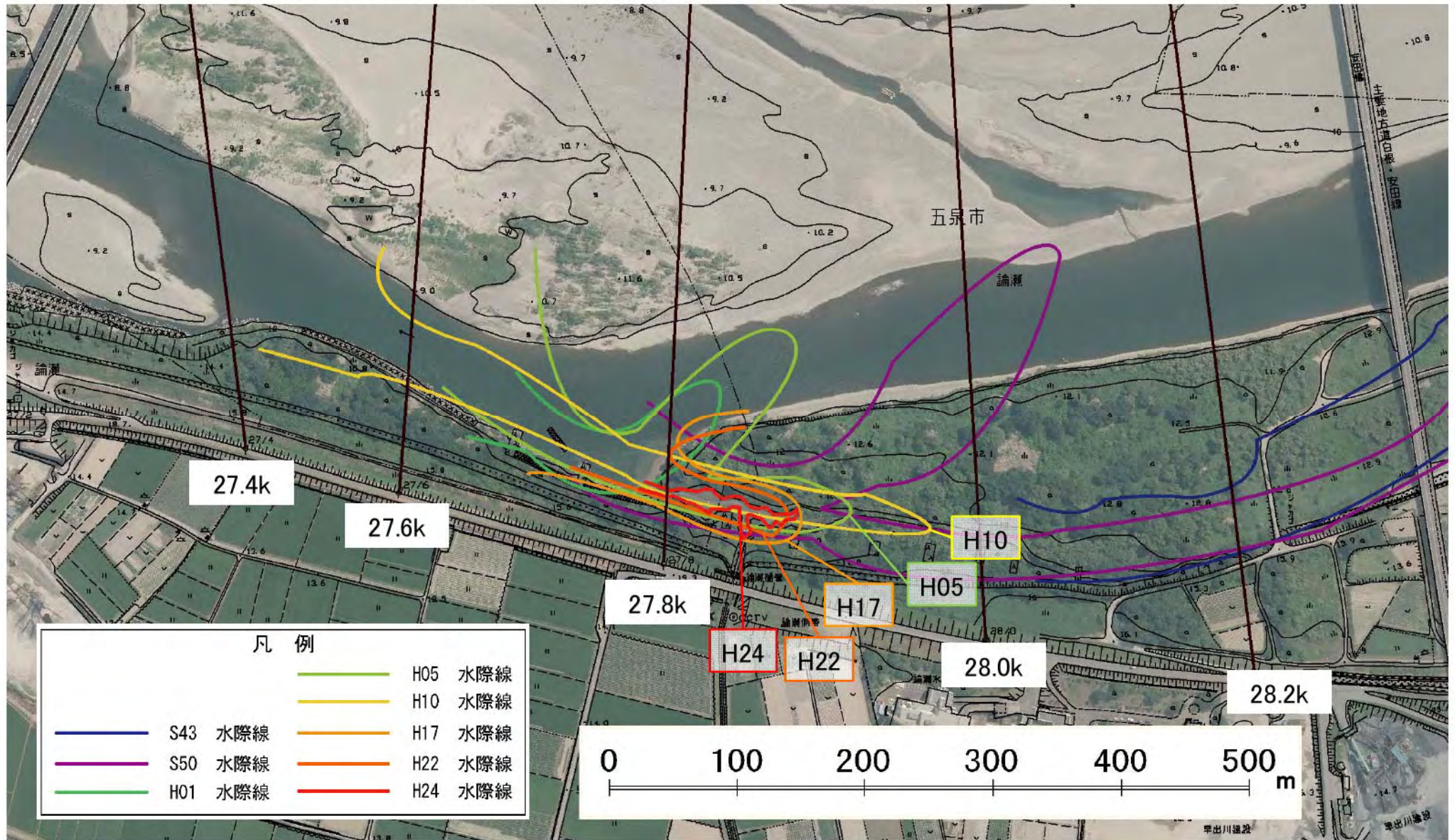
論瀨地区の現況写真



撮影日：H26.10.18
馬下観測所流量：9:00時点 121m³/s
平均濁水流量相当時

論瀨地区のワンド形状の変遷

- 昭和期には大きく変動していたが、平成期以降は今の位置となり、長さが縮小。

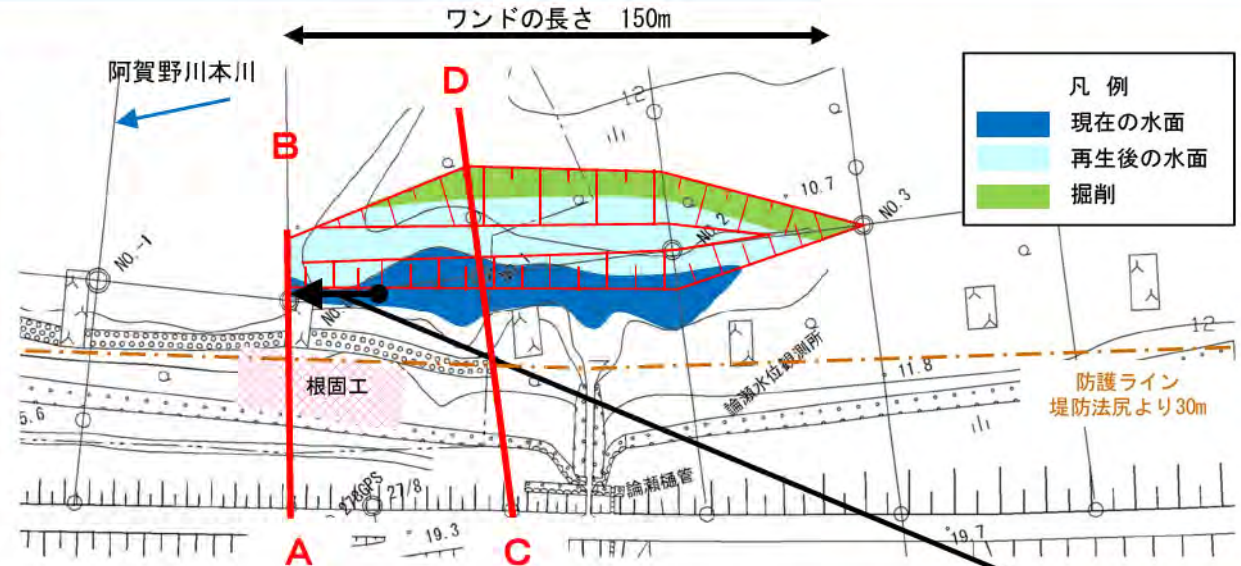


論瀨地区ワンドの整備方針(案)

平面図

ポイント

- ・ 論瀨地区は、流れの速いセグメント2-1の上流端に位置する貴重なワンド。
- ・ 堆積が進行しているため、幅・深さともに広げ、ウケクチウグイをはじめとする魚類等の生息場、タコノアシやミズマツバ等湿生植物の生育場となるワンドを再生する。
- ・ 左岸現況法勾配が10割であることから、左岸側を10割勾配とする。

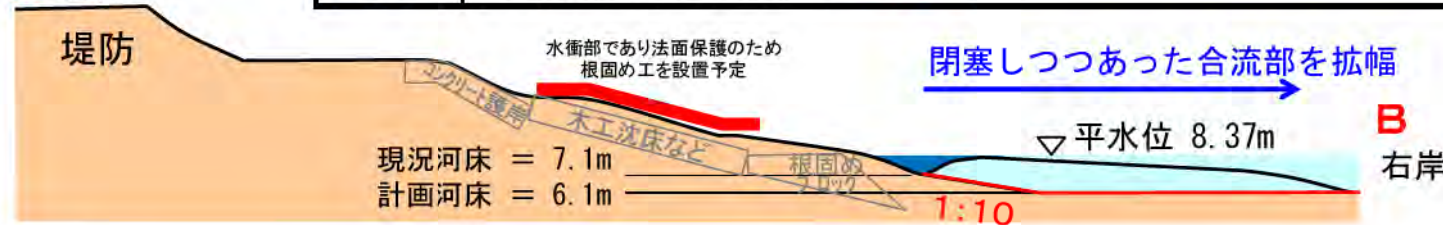


断面図

設計内容

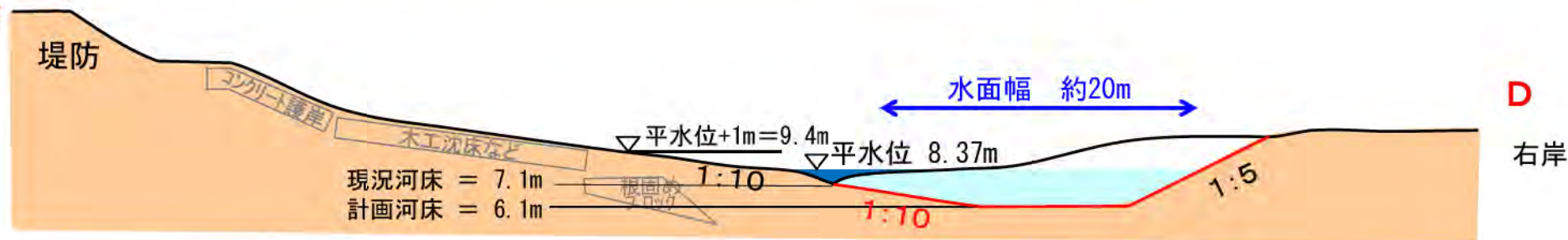
河床高	・ 10月の現地確認時は、濁水位相当の流量時であり、河床がほぼ露出していた。 ・ 1/10濁水位時には更に水位が下がることから、合流部付近の 現況河床より1m下げ、T.P. 6.1m とする。
河岸勾配	・ 再生計画のとおり、河床から 10割 。
水面幅	・ 現存するワンドの平均幅より、 20m程度
長さ	・ 平成初期の水面を目安に、 150m程度

A 左岸



撮影: H26.10.18 9:26
馬下観測所流量 121m³/s: 9:00時点
馬下観測所平均濁水流量: 119m³/s (1992~2011年)

C



D

右岸